

佳作

まじいお父さん

茨城県 日立市立坂本東小学校三年 磯野 真宏

ぼくのうちは、けんせつぎょうの会社をやっています、お父さんはそこで仕事をしています。

ぼくは、小さいころから車がすきで、とくにはたらく車は大すきです。よくお父さんにシヨベルカーやダンプカーの運てんせきに、すわらせてもらったりしていました。

今年の夏休みは、ぼくのうちの近くの道路を工事していて、ときどき見に行きました。ジリジリあつい太陽の下で、お父さんの顔はまっくらだし、水色の作ぎよう着は、あせでこい青色にかわっています。道路には、大きなあながあって、水が大りように出ていました。ぼくは、こんなに深いあなをうめるのは大へんだと思ったし、ちょっとこわかったです。

この道路は、二年前の大雨で地下の水路がこわれ

通った車が、はまって動けなくなってしまうくらい
のあなでした。その時、お父さんは、カップを着て、
長くつをはき、通行止めのかんばんや、カラーコー
ンをたてにいきました。

けんせつぎょうと聞くと、昼間にシヨベルカーや
ブルドーザーにのって、工事をしているイメージが
あると思うけど、それだけではありません。台風が
来たときには、夜に電話が来て、雨の中出て行くこ
ともあるし、雪がふった日には、坂で車がすべらな
いように、夜中にくすりをまきに行くこともありま
す。そういう日には、大すきなお酒をがまんして、
いつでも仕事へ行けるように、たいきしています。

お父さんは、ぜったい大へんなのに仕事のもんく
は言いません。でもぼくは、夜に電話が来て、仕事
に行ってしまうお父さんが、少し心ばいです。お父
さんに、

「大へんじゃないの？」

と聞いたたら、

「みんながこまっちゃうからな。」

と言っていました。ぼくは、あつい日も雨の日も、
雪の日も、がんばっているお父さんが、かっこよく
て大すきです。